

令和7年1月7日

研修だより 52号



「学びに向かう力、人間性等」の研修報告①

小笠原康晃

先日、静岡県総合教育センターで開催された「学びに向かう力、人間性等」の研修会に参加しました。

講師の先生言わく「この分野の研修会を行なっている都道府県は珍しい。」ということでした。

現行の学習指導要領に変わったとき、前任校にいました。

一番話題になっていた評価の観点は「学びに向かう力、人間性等」でした。なぜ、「学びに向かう力、人間性等」が大切だと言われているのか。

具体的にどのように実践していけばよいのか。

学んできたことを、先生方と共有させてください。

なぜ「学びに向かう力、人間性等」が大切だと言われているのか。

それは、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力は「非認知能力」の育成に繋がっているからです。

「非認知能力」を高める理由は、個人の豊かな人生に大きく影響しているからです。

「非認知能力」とは、認知能力（課題を解決したり、問題を処理したりする能力）以外の能力のことで、思考・感情・行動について個人が持つ特徴の総称のことです。

学習指導要領では、「学びに向かう力、人間性等」と示されています。

具体的には「メタ認知能力」「やり抜く力」「感情を制御する力」「自己内反省力」「自己有用感」「自己肯定感」などです。

学力とは別に、非認知能力を育てていくことが、学校に求められるようになってきました。

それは、なぜでしょうか？